

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館
(ユニット名)	
所在地 (県・市町名)	静岡県静岡市
記入者名 (管理者)	永田敬介
記入日	平成 21年 4 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所独自の理念がある ・職員行動指針としても「地域住民に親しまれ、信頼されて地域で永続発展する施設作りを目指す」と掲げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が気軽に来いただける場所にしたい
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を掲示している。 ・朝礼の際、行動指針を読み上げ、実践したい内容の具体的な発表を行なっている。 ・行動指針を皆で確認しあい、意識向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も積極的に職員への周知を図りたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な家族会、運営推進会議を開催している。 ・地域の方を招いたお祭りを開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頻度が少ないので今後、積極的に取り組んでいきたい。 ・ご家族との連絡、協力体制は今後、理解を深め、強化していきたい。そのためにも日々の情報共有、連絡などを密にしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩時など、職員、お客様と近所の方と日常的な挨拶を交わしたりしている。 ・ボランティアさんに定期的に来ていただいている。 ・近隣住民の方々との日常的な交流はほとんどできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り等のイベント時には協力を頂いているが、日常的な交流はまだ十分ではない。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会から TENT 等を借りたり、関係性はある。 ・あまり地域との交流が図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の催し物等、積極的に参加していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の方への発信は行なえていないのが現状。		・認知症ガイドサポーター等の勉強会を行なっていきたい。 ・地域の高齢者の拠点となれるようになっていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・意義の理解は職員によってばらつきがみられる。 ・具体的改善策の実行に至っていないことが多い。		・職員一人ひとりへの理解を促していけるよう、今後取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に運営推進会議を開催しているが、その内容・情報が職員一人ひとりにまで周知されていない。反映されていない。		・現状では報告会程度のものになってしまっている。活発な意見交換などが無いので、今後、有意義なものにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・地域包括支援センターの勉強会、事例検討会、連絡会への出席し、定期的な情報交換を行っている。		・今後さらに十分な連携を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・研修会に参加し、会議等の場で研修報告を行なうなどして知識の向上、職員への周知徹底が図れるよう努力している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会や会議等の場で虐待についての知識を深めるようにしている。 ・職員への啓発に努めている。		・学ぶ機会を充実させていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時には事前に御家族様とゆっくり話をする場を設け、施設理念やサービス内容などを確認しながら、理解をいただけるよう取り組んでいる。</p>	<p>・限られた職員だけでなく、多くの職員が制度や利用条件等を理解し、御家族からの質問等へ十分対応できるように、意識・知識の向上に努めたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・苦情などを受けたら必ず職員間で話しあい、すぐに改善できる事には取り組み、会議等でも話し合っている</p>	<p>・十分とはいえない。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族会を開催している。 ・毎月お便りを送り、近況報告を行なっている。 ・受診対応後などは御家族様への報告を行い、医師や看護師、職員間との情報共有が図れるよう取り組んでいる。</p>	<p>・御家族との連携強化に向けて家族会を更に有意義なものにしていきたい。開催方法や時期などを再検討していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・面会票に意見や苦情を書く欄がある。 ・苦情や不満を言える関係性が築けるよう心掛けている。</p>	<p>・御家族様の意見や要望、苦情等を運営やサービスに反映させられるよう、家族会の内容の充実を図っていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・部署会議を定期的に行ない、職員同士の意見を出し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・急変時や入居時等の対応がスムーズに行なえるよう調整をしている。 ・全てではないが、概ねスピーディな対応ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員の異動を知り、その事を気にされるお客様がいらっしゃる場合は理解していただけるよう説明をしている。</p>	<p>・十分にできていない。 ・離職を防ぐ為に、職員の抱える不安や職場環境の整備を行ってきたい。 ・離職する側の都合もあるとは思いますが、配慮していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修、勉強会への参加の機会はある。 ・新入職員が育成担当の職員とかかわれるよう配慮している。 ・認知症についてや口腔機能維持についてなど、テーマ別の講習会や勉強会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設での連携をとり、研修や勉強会を積極的に行なって行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会に参加して自身の疑問や他施設の課題などを話し合っている。 ・研修、実習の受入れをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの職員が参加しやすい環境を整えていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の個別面談を行なっている。 ・リフレッシュ休暇や毎月のシフト作成時に休み希望を取れるよう配慮している。 	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で助け合いながらスムーズに働けるようにしている。 ・上期・下期で自己評価、目標設定の機会がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に個人面談を実施し、職員の不安、不満、業務に対する意欲を把握し、評価につなげていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がある場合は、出来る限り一人ひとりの思いを聞こうと心掛けている。 ・相談から入居までの時間が短く、十分なアセスメントが出来ないことがある。 	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会の際に本人の状況を職員から離したり、ご家族が話しやすい雰囲気を作るようにしている。 ・所長、主任、ユニットリーダーが担当している。 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・すぐに入居に至らないケースでも、他の介護サービスの提案、連絡調整を必要に応じて行なっている。		・迅速に対応できるよう今後更に取り組んでいきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・早急性のあるお客様がほとんどで、ゆっくりと馴染んでいただく期間をとることが出来ていない。 ・インテークの充実 ・馴染みの物を持ってきて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・お客様がそれぞれ主役となる場面作りに努めている。 ・人生の先輩として学ぶ事は多いと感じる。 ・職員とお客様との会話を大切にしている。 ・一緒に料理をしたり、作り方を教えてもらったりしている。		・関係を築いていっているものの、支えあう関係までには至っていないと思う。 ・もっとゆとりをもって会話やレクリエーションが楽しめるようにしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・適宜、報告・連絡を行なっている。 ・面会時、毎月の手紙連絡で定期的に行なっている。		・御家族と協力して御本人への支援につなげていけるよう、取り組んでいきたい。生活歴等の把握をして今後のケアにつなげていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・職員同士、情報共有をはかり、接し方や関係作りに配慮している。 ・生活習慣等の情報提供を求めるよう努力している。		・御家族を含めた行事をもっと行なっていきたい。 ・御家族の方があまり積極的に関わっていただけないケースもあり、今後連携のとり方を工夫していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前にデイサービスを利用していた方は、馴染の方が御利用される日など、随時デイにも参加して頂いている。 ・自由に面会に来ていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・本人の状況に応じて席に誘導したり、職員が間に入って会話がスムーズに行える様支援している。 ・食卓の席を決める際に配慮している。 ・お客様が孤立したり、孤立感を感じることはないよう配慮している。		・認知症という病気を持っている方が新しい環境で新しい関係を築いていけるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・必要に応じて御家族様の相談に対応しているが、継続的な関係には至っていない。		・できていない。 ・利用終了後の方に対するその後の対応を十分行なっていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・フェースシートの作成に取り組んでいる。 ・ご家族様からも話を伺い、どのような思いで、どのような支援が必要なのか検討をしている。 ・お客様とのコミュニケーションを取ることに重点をおくようにしている。		・個別の企画を充実させていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ひとりひとりとゆっくり話をして、その方がどんな生活を送っていたのかを知る。 ・会話の中から今までの生活歴を聞きだせるようにしている。 ・職員が把握しやすいようにまとめられていて、ファイリングされている。		・個別に、昔住んでいた場所や、懐かしい場所に行きたい。 ・センター方式を活用して情報収集を行なっていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・生活記録や申し送り事項の徹底を図っている。 ・バイタルチェックや様子を見て行なっている。 ・職員、家族、本人より情報収集、情報共有を図れるように努めていきたい。		・一人ひとりのお客様の生活のリズムを把握し、それに基づいたサービスの提供を充実させていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・会議や家族会を行ない、より良い介護サービスができるように心掛けている。 ・担当者会議・ケアカンファレンスの実施が十分ではない。 ・ケアマネ・計画作成担当者、ユニットリーダーが中心となってケアカンファを行ったり、職員から情報共有し、ケアプランにつなげている。		・ケアカンファレンスの充実を図っていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・モニタリングを適宜行なったり、病気等の体調変化にあったものを作成している。 ・状況に応じたモニタリング、ケアカンファを行い、ケアプランに反映させていっている。		・御家族様、御本人の意向を反映した介護計画になるよう、聞き取りを充実させていったり、具体的な支援の提案をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、各職員が気付いたことを日誌に記入している。記入する内容がいつも同じようになってしまっている。 ・生活記録、申し送りの徹底をはかる ・生活記録の中にケアプランの内容が実践できているかのチェック項目があるので、意識しやすい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に書式の改善を図り、内容や形式の充実、情報共有のしやすさについて検討・改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・十分にできていない。 ・デイサービスとの合同行事等を企画している。 ・入居前にデイをご利用されていた方には馴染みの関係が絶たれることのないよう、デイのレク等に参加して頂いている。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りなど行事の際には民生委員の方の協力も頂きながら行なっている。 ・定期的にボランティアさんに活動を行なっていただいている。(音楽会、読み聞かせ、清掃作業等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか交流機会がもてない。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具を扱う業者さんや、他の事業所とも話し合いながら柔軟に対応している。 		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に連絡会へ参加している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今後、更に情報交換や勉強会等を頻度を高めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人からの訴えがある場合や、急変時には受診ができるように対応している。 ・ご家族様、ご本人の希望に合った病院の選択 		<ul style="list-style-type: none"> ・御家族様のなかには、任せきりになっているケースもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に理解のある医師と関係を築きながら情報共有を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の介護負担が重いことばかりを医師に伝えているように感じる。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 看護師が医療面の支援(体調管理や情報共有など)を強化している。 	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入院時には病院関係者との情報共有や状態把握に努めている。 退院や今後の生活についての連携を図りながらすすめている。 	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個別に対応し、話し合いの場を設けている。ご本人や御家族様の希望を伺っている。 緊急時や終末期のお客様の緊急対応マニュアルがある。 ご本人や家族の意向を踏まえた上での対応を検討し、職員全員で方向性を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルケアについての勉強会を充実させたい。 個別に十分な対応ができるよう、事前に話し合いを重ね、全ての職員が対応できるように取り組んでいきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別のマニュアルを作っている。 「できること・できないこと」の見極めが難しく、職員の中には不安を感じる者もいる現状がある。 	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> インテークの充実。 会議で情報を職員に周知徹底していく。 転居先の担当者との連携をとりながら情報共有を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分にはできていない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの確保を心掛けている。 ・十分とはいえないが、職員が各々配慮している。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・何かを訴えたい様子がみられたら、声掛けをしてしっかりと聞く。 ・お客様の目線に合わせるよう努力している。 ・お客様の意思を出来る限り尊重できるよう支援していく。またそのために取り組んでいる。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人には本人のペースで生活して頂いているが、場合によって安静、離床時間の確保、トイレ誘導を行なっている。 ・個々のペースを守る。 ・個別ケアの充実を図っていききたい ・職員によっても違いがあり、職員の都合で適切な支援ができていない場合もある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・その方らしい服装をしている。衣服が汚れたらすぐ取り替えるなどの清潔を保つ。 ・女性の場合には化粧品を一緒に買いに行ったりしている。 ・御本人の希望に合わせて美容院に行ったり、訪問してくれる業者さんと協働している。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの料理を作る ・一品作っていただいたり、野菜をいためるなど、お客様と楽しみながら支度をする。 ・片付けなどできる範囲でお客様と行なっている。 ・メニューを一緒に考える。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良ではない限り、本人が好きなものを提供できるようにしている。個人差はあるが、ビールを楽しまれたりする方もいる。 ・個別対応を今後充実させていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・失禁、失敗が目立つ場合は、時間誘導やリハビリパンツ(夜間のみなど)の使用など、少しでも不快をなくすようにしている。 ・排泄パターンの把握に努めている。		・十分な支援が出来ていない。特に拒否が見られた時の対応を今後検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的には本人のタイミングで入浴して頂いているが、何日も入浴できていない場合には、清潔が保てるよう心掛けている。		・入浴の誘い方などを工夫して、快く入って頂けるようにしたい。 ・時間帯(夜間)の検討が必要 ・入浴拒否がみられる方も気持ちよく入浴して頂けるよう取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・居室の温度管理、電気の調整などを行なっている。 ・現状では可能な限り行なえている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・毎日、食器拭きや洗濯干し等役割を持っていただき、役割を楽しみながらやりがいと思っただけにしている。 ・生活歴、得意・不得意の分野の把握を心掛けている。 ・音楽やラジオを楽しんでいただいたり、買い物に出かけたりしている。		・レクリエーションを日常的に行なっていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には預かり金として職員が管理しているが、本人の欲しい物を買物時に購入している。ご自身で管理されている方もいる。		・職員が「本人がお金を持つことの大切さ」や意味理解を深めていけるように勉強会や会議等で知識・理解を深めていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物やドライブに誘ったり、外出の機会を作っている。		・ひとりひとりの希望に沿った外出の充実 ・外出の機会を作っているが、本人の希望に沿ったものになっていない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・お客様の希望や季節ごとに外出する場所、機会を作っている。 ・体調等考慮しながら外出・外泊等の支援を行っている。 ・企画をたて、外食などを行なっている。 ・御家族へも協力を依頼している。		・もっと頻繁に外出機会をもてるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望があれば電話できるようにしている。 ・年賀状や誕生日などの機会に、手紙を書くきっかけ作りを行ったり、その環境を整えるよう心掛けている。 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問された方に失礼のないような態度で接したり、本人の状況を伝えるように心掛けている。 ・フロアや居室等で団欒できるような環境を整えていっている。 ・面会時には気持ちの良い対応を心掛けている。 		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけその人らしい自由な生活を送れるように支援している。 ・身体拘束について勉強したり、会議で話し合っている。 ・身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる。 		・スピーチロックの改善
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵はかけていない。また、鍵をかけることの弊害や意味を職員で話し合う場を設けたり、理解を深める取り組みをしている。 ・薬品庫のみ施錠している。 		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を第一に考えた見守り等行なっている。 ・居室で過ごされている際の安否確認のため、居室入り口を少し開けたり、必要最低限に抑える工夫をしながら取り組んでいる。 		・職員の声の大きさなど、プライバシーへの配慮を心掛けたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・誤食、異食の危険があるお客様については、居室内の物品管理を職員が行っている。 ・「危険回避」が「危険物取り除き」にならないように慎重に見極めを行い、対応している。十分ではないこともある。 		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止について会議やカンファレンスで話し合う機会を持っている。 ・事故防止委員会を開催し、対策、検討を行なっているが、全体周知に至っていない。 		・事故防止対策の活動の充実を図りたい。再発防止の徹底。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・マニュアルを作り掲示している。 ・急変時の対応について会議等でも話し合ったり、確認を行なっている。		・定期的には行なえていない。 ・救急救命講習会を開催していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・定期的に防災訓練を行っている。 ・防災訓練は実施しているものの、実践的なものにはなっていない点で不安もある。		・近隣住民の方の協力を得ながら訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・事故やそのリスク、その対策についてをご家族様に説明し、協力を仰いでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日勤帯のリーダー制をとり、情報収集、情報共有、迅速な対応を心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬表を作り、お客様の薬の情報が見やすいところに保管している。 ・二人以上の職員で確認してから服用して頂いている。 ・職員によっては認識の差が大きい。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・乳製品などを個別に購入し、排便コントロールがスムーズにできるよう工夫している。 ・薬だけに頼ることのないように、食事内容や排泄パターン等の確認を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、口腔ケアに取り組んでいる。 ・個々に差が出てきてしまっている。一部自立されている方への声かけ等、今後も検討をしていきたい。		・充分とはいえない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量、水分量を毎日生活記録に記している。 ・キザミ、ミキサーなど一人ひとりへ対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・一介助、一手洗いの徹底。 ・必要に応じた手袋の使用。		・研修で得た知識や方法などを実行できていない。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・安全な食材の管理を心掛けている。		・衛生管理の徹底ができていない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・花や置き物、写真などをユニット玄関やフロアに貼っている。		・入りにくい印象を与えてしまっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・工夫はしているが、暗い印象がある。 ・ブラインドで光の調節をしたり、季節の置き物などで季節感を出している。 ・間接照明がやさしい光を作っている印象を受けるも、全体に暗い印象がある。		・季節感のある装飾をもっと取り入れていきたい。 ・フロアの照明がもっと明るいほうが良い。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食卓の席を決める際に配慮している。 ・ソファやフロアの席などの配置で空間作りを工夫している。		・思い思いに過ごせる場所が確保できるよう配慮していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・御本人がそれまで使用していたものを持ち込んでいただいている。		・お客様に合わせた、インテリア(照明・カーテン等)を考えていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気を行ったり、消臭剤をおいている。 ・季節に応じて加湿器を設置したり、状況に応じて対応している。 ・掃除の際にはできるだけ換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に過ごしていただけるよう居室内の家具の配置についてや、居室からトイレ等の動線に配慮している。		・自立支援に向けたハード面の充実。手摺りの設置
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・排泄時や更衣時にさりげなくお手伝いをしている。		・御本人の力を発揮できるような工夫を更にしていきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・現状ではほとんどできていない。		・お客様が楽しみのためにベランダ、外周りに出る機会は少ない。 ・ベランダを活用できていない為、今後、季節ごとの花や野菜作り等にも取り組んでいきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●湖山福祉グループ理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」に基づき可能な限り、ご入居様おひとりお一人の状態に合わせた個別ケアの実践に取り組んでいます。